

稲荷から蹴上

京都府山岳連盟トレイル委員会



京阪稲荷駅 標識東山1



稲荷神社拝殿



千本鳥居



重かる石



ミニ土柱



「ひざ松様」

平成26年(2014)に伏見・深草ルート「Fルート」が整備されたため、京都一周トレイルの起点は京阪伏見桃山駅に変わったが、京阪伏見稲荷駅は平成5年(1993)に開設された当初の東山コースの起点で、標識東山1の標柱は駅構内に建っている。

駅を出て商店街を東に行くと疏水の手前、右側の小公園は旧京都市電の稲荷停留所跡である。市電開通は明治37年で後年に京阪電車が開通した。従って京阪電車と京都市電はこの停留所直前で平面交差しており、昭和の初期に2度も衝突事故があった。

小公園には「京都一周トレイル」の地図案内板が設置されているが、地図案内板は道路からは見えず、小公園内部からしか読めない。

疏水の橋を渡りJRの踏切を抜けて伏見稲荷への脇参道に入ると、両側には小さな鳥居やロウソク等の神具、みやげ物等を営む店が並んでいる。稲荷社はいわずと知れた商売繁盛を願う神で、いつも多勢の参拝者で賑わっているが、本来は農業神である。そのことから稲の害敵の雀を捕食するのが始まりとの説から「雀の焼き鳥」屋も目につく。最近には雀には狩猟期間があり、オスは食肉にメスは採卵に養殖されて手に入れ易いうずらが主流になったようである。

本殿横の広い石段を登り、新しい奥殿の社屋から右に行くと千本鳥居である。鳥居は二筋に分かれているが、どちらを行っても奥の院に至る。観光客が殺到する現在は一方通行となっているようだ。千本鳥居は単に多いという寓意ではなく実数に近いと聞いている。

千本鳥居を出ると奥の院、社殿の右奥に「重かる石」がある。石灯笼の擬宝珠であるが、持ち上げた時の重量感覚で思ったより軽ければ願が叶うという。

奥の院の左の鳥居脇に「京都一周トレイル」標識東山2-1がある。トレイルコースは鳥居を潜り稲荷「お山めぐり」巡拝道に入るが、鳥居の両側の崖に現れる超ミニ土柱は何とも可愛らしい。最近では周囲の樹木が伐採され雨滴が直接落下するので形状が崩れてきた。

すぐ左の一段高い場所に、屋根だけの社殿で根上がり松の「ひ



Fルート合流点



稲荷こだま池



四つ辻

ざ松様」がある。腰痛やひざ痛に霊験あらたかと聞き、信者が膝様部分を撫で摩るので、初代は見るも無残にぼろぼろになり包帯が巻かれていた。「ねあがり」の語呂から投資家の信者も多く。近年にご神体が新しくなり屋根のある社殿になった。

この前の標識東山 2-2・標識 F 35 が、新設された東山トレイル「F ルート」との合流点である。

連続する鳥居の道を降り、トイレを右に見て石段を登る。この辺りから「お塚」と呼ばれる小石碑群が目につく、お塚とは個々の稲荷信者の「我が家のお稲荷様」で、全山では一万基を超すらしい。

石段を登ると「熊鷹社」という礼拝所で、背面に「こだまヶ池」が広がっている。池に向かい拍手を打ち「こだま」がすぐに返ってきたら願い事が叶うといわれている。

「熊鷹社」から左へ緩い石段を登ると「三つ辻」の三叉路、次いで右方向へ曲がり「四つ辻」まで「三徳さんの石段」と呼ばれる四〇〇段の石段である。清少納言が「枕草子」に初午に稲荷詣でに行き、後ろから来る人が追い越していくのが、「い

とうらやまし」と書いたのはこの場所ではとされている。

三つ辻から四つ辻へ登る石段の途中に展望台があり、その反対側に岩石が露出している。よく見ると、幅数センチの板を何枚も重ねたような岩が折畳んだように屈曲している。この岩は「チャート」と呼ばれる硬い岩で京都付近あちこちに見られるが、肉眼では小さくて見え難いが電子顕微鏡で調べると、放散虫や海綿など海に住むプランクトンの化石が見える。今から 1 億数千万年(中生代＝恐竜が栄えた時代)に、それらの死骸が海底に積もってきた岩石である。京都の三方を囲む山々は大部分が、このチャート、砂岩・泥岩等の堆積岩に、石灰岩などを含む「丹波帯」という地層で出来ている。



一の峰 末広大神



御膳谷奉拝所



眼力社

稲荷山の「四つ辻」は古名を「石灯籠」とも「見付の峰」ともいい、標識東山 3-1 の標柱が建っている。好展望台であり絶好の休憩場所でもある。古くは大阪城天主と伏見城天主が見渡せ、通信手段の少なかった往古は重要な場所であつたらしい。見付けとは見晴らしの良い場所のことである。

トレイルコースからは外れるが、時間を作り稲荷山「お山めぐり」の残りを回ってみよう。四つ辻の茶屋の前から左の石段を登る。三の峰、二の峰、間の峰と礼拝所が続き、「末広大神」を祀る一の峰が最高峰である。一の峰から長い石段を降ると「長者社神蹟」。剣石、雷石(みつるぎさん)、薬力社等が続き、春日峠という小さな峠を越えると、幽邃な御塚が林立する「御膳谷奉拝所」に着く。古来、稲荷各峰の神々に神饌(お斎)を日々供する神事が行われている。

「御膳谷奉拝所」と次の「眼力社」中間の茶店地下に、参拝者



荒神峰からの展望



御幸奉拝所



横山大観筆塚

用トイレがあり拝借できる。

「眼力社」は目の病に御利益があり、口に咥えた青竹から冷水が出ている狐の青銅像は、参詣者の目を引き子供達にも人気がある。「眼力社」から次の「大杉社」の辺りは湧水が豊富で「カキツバタ園」がある。「大杉社」から数分も緩い石段を登れば「四つ辻」に戻る。1時間も掛からず一周できる。

四つ辻の標識東山 3-1 から、一の峰とは反対方向に鳥居を一つ潜ると標識東山 3-2 がある。分岐から石段をまっすぐに登り、「田中社礼拝所」の裏に回ると荒神ヶ峰である。

トレイルコースは標識東山 3-2 から、荒神ヶ峰の左を巻くように「御幸辺（みゆきべ）」の道に行く。

荒神ヶ峰は絶好の展望台で京都南部の町並が眼下に広がる。西山から天王山まで、天気が良ければ遠く生駒の山々から大阪のビル群までも望める。

ここ荒神ヶ峰では祇園祭宵山から二十日ごろまでの稻荷本宮祭に、百三十一個の提灯で鳥居形が点灯され、伏見の夏の夜の風物詩にもなっている。

荒神ヶ峰からは戻らずに直進し、コンクリート階段を下ると小さな十字路となり、左に降りれば標識 東山 3-3 があり、本

来のトレイルコースである「御幸辺」の道と合流する。

標識 東山 3-3 の先、右手が「御幸奉拝所（みゆきほうはいしよ）、陰陽を模した塚が林立し壮観である。左奥には横山大観画伯の筆塚があり、筆塚の左後に大観ゆかりの黒竹の叢が見られる。

「御幸奉拝所」前から舗装された狭い坂道を降るが、古くは御山詣りの後の「帰坂（かえりさか）」とも言った。最後は急坂となり住宅地の道路に出会う。



東福寺三門（山門）

標識東山 4 脇を右下に石段を降り、狭い地道のを進めば三の橋川の標識東山 5 である。標識東山 4 からは、左の住宅地の舗装路を降れば東福寺に至る。

東福寺は、臨済宗東福寺派大本山の寺院。山号を慧日山（えにちさん）と号する。創建以来、度々の火災で焼失し現在の本堂、方丈、庫裏などは明治以降の再建だが、国宝の山門（東福寺では三門という）をはじめ中世の建築である東司（便所）、浴室、禅堂などは焼け残り、特に禅宗寺院の遺構としての東司（便所）浴室は有名。三門は南禅寺の山門をしのぎ京都で一番大きいと聞く。

境内の通天橋は紅葉でつとに有名だが、宋から伝わった「通天モミジ」と呼ばれる三葉楓（葉先が三つにわかれている）など楓の木が多い。



東福寺通天橋

トレイルコースでは無いが、通称稻荷山三角点を廻るコースも紹介しておこう。「四つ辻」から「お山巡り」のコースを登り、一の峰を越えて少し降ると鳥居の間を右に抜ける道に入る。稻荷山三角点へは、その先の通称七曲り鳥居を見て手前の分岐を左の山道に入る。七曲りとは「末広の滝」からの登ってくるコースである。この辺り「僧正が峰」という。

前年の台風で相当荒れており。無残に倒れて「根あがり」を起こした杉の大木が何本もある。その間を鞍部に降りると、右から「大岩大神」からの道が合流する。そのまま滑りやすい山道を



標識東山5の分岐



稲荷〜泉涌寺



泉涌寺登り口



解脱金剛宝塔



御寺泉涌寺



悲田院からの展望

登ると、こんな所にある場所に「お塚」がある。倒木で荒れているので注意して更に進むと、小広い通称稲荷山三角点に着く。(標高239.1m、三等三角点、点名西野山)

樹林と倒木に囲まれ展望は無いが、観光客でいっぱいのお山めぐりの喧騒さと比べ、鳥の声ものどかな静かな山頂である。

稲荷山三角点の脇の踏跡を北へ降れば、竹藪が現れ三差路の宮内庁の鉄線柵に行きあたる。右は山科へ降り、鉄線柵に沿って左に降ると林道に降り着く、稲荷さんの行場の一つである清滝で、そのまま行場から川沿いに林道を降ると、本来のトレイルコースの標識東山5の標柱に出会う。

ちなみに東福寺の通天橋の架かる川を三の橋川、またの名を「洗玉澗」(せんぎょくかん)といい、標識東山5で渡る川の下流にあたる。

トレイルコースは、標識東山5の前の橋を渡り正面の補助標識に従い住宅街に入るが、民家の塀に掛けられた右折補助標識から細い道を直進すると、静謐な聖地「五社乃滝」である。

住宅街を標識に注意して通り抜け、標識東山6からフェンスの間を登ると、「御寺泉涌寺(みてらせんにゅうじ)」の御陵前が出る。「泉涌寺」は皇室の菩提寺である。

本来はトレイルコースも稲荷山から月輪山と結びたいが、コースから御寺や皇室の廟を見降すのはどうかということで、住宅街を抜けることになった。住民の方には迷惑にならないよう通過に充分注意したい。

御陵群を過ぎると右手の石段の上に巨大な「解脱金剛宝塔」がある。解脱会は、伊勢神宮、橿原神宮、御寺泉涌寺を三聖地とする泉涌寺とは縁の深い新興宗教。その先が御寺泉湧寺。

東山三十六峰の一つ、月輪山の麓に静かにたたずむ御寺泉湧寺は、天長年間に弘法大師がこの地に庵を結んだことに始まる。天台、真言、禅、浄土の四宗兼学の寺で、仁治三年に四条天皇が当寺に葬られてからは歴代天皇の御陵が造営され、爾来皇室の御香華院(菩提所)として、「御寺」というと「泉涌寺」のことをいう。また、泉涌寺に祀られている楊貴妃観音像は建長七年(1255年)に中国から渡来したもので、玄宗皇帝が亡き楊貴妃を偲んで造らせたと伝えられ、参詣すれば美人になるご利益があると言われている。ご利益を願うも良いが時間を考慮し拝

観しよう。

泉涌寺の広い参道を降ると、参道の左側グラウンドの角に「悲田院」の石柱を見る。泉涌寺塔頭の一つであるが、境内からは東山一帯の展望が楽しめる。



今熊野観音分岐 標識 7



今熊野観音分岐標識 8



標識東山 9-1 満開の垂桜



剣神社



剣神社の絵馬



東山 9-2 標識

「悲田院」は仏教の思想にもとづいて設けられた貧窮者や孤児の救済施設で、聖徳太子の発案で平城京に始まり、平安京でも東西二ヶ所に建てられた。もとは鴨川の西畔の三条河原にあった東の悲田院が移設されたと伝える。

悲田院参道入口の向かい側、灯籠の陰で少し見難いが「今熊野観音」への分岐が標識東山 7 である。トレイルコースは今熊野観音への橋手前で、橋下を廻り込むように潜る右の道を降る。分岐の右下に標識東山 8 が見える。今熊野観音は橋を直進する。

今熊野観音寺は西国三十三箇所観音霊場の第十五番札所で、「頭の観音さん」として広く人々の信仰を集めている。一説に大同二年（807 年）、弘法大師が東山の山中に光明がさし、瑞雲棚引く熊野権現のご霊示を受けて、この地に庵をむすばれたのが創設で、平安末期に後白河上皇から「新那智山」の山号を賜ったと伝える。

今熊野観音の北方向に対面する峰を阿弥陀ヶ峰といい、峰の南西一帯を鳥戸野、北西の一帯を鳥辺野といい双方とも（とりべの）と読む。今熊野という呼ばれる一帯の鳥戸野の地は、古くから高貴な方々の葬地であり、鳥戸野の葬地を管理していたのが観音寺であった。一方の鳥辺野は庶民の風葬の地となっていた。

標識東山 8 から沢沿いの道を泉涌寺の墓地分岐を経て、右上の鳥辺野陵を過ぎ、静かな住宅の間を進む。急坂の狭くなった道を降ると橋を渡るが、春には橋畔の「しだれ桜」が最高に素晴らしい。橋を渡ると標識東山 9-1 である。

コースは標識東山 9-1 で、「剣神社」の鳥居を正面に鋭角に右折する。剣神社は子供の神様で疳の虫を封じる三疳（みかん）封じで有名。十一月の御火焚祭に神前において清火で焼いた「ミカン」を参詣の人に授けている。この「ミカン」をもじって、三疳（みかん）封じと言っているようだ。この神社の絵馬は「とびうお」を 2 尾並べて描かれた図柄で珍しいものである。

緩い坂道の住宅街の中を進み、角に石垣のある十字路から道は狭くなるが、標識東山 9-2 の先の三叉路を左折する。

突き当りの階段を右に登り鋭角に左折すると、「滑石街道」と交差し、地藏さんの祠横に標識東山 10 がある。少し判り難いが

注意して歩こう。標識東山 10 の前を直進し、水道局ポンプ施設先の標識東山 11 から、右の階段を登る山道に入る。



滑石街道交差



渋谷街道の横断部



清閑寺・清水寺分岐



清水山登山口分岐



「清閑寺山」石塔



清水山三角点分岐

この辺り京都女子大学「京女鳥部の森」として活用されている。緩い山道が続き右上の最高所の六条山への踏跡がある。峠状でベンチのある標識東山 12 を右へ降ると、京都市斎場への取付け道路の標識東山 13 である。標識東山 12 を直進すると豊国廟のある東山三十六峰「阿弥陀ヶ峰」（あみだがみね）へ登りつく。

「豊国廟」、慶長三年（1598 年）、秀吉は六十三歳で伏見城にて薨じた。遺体は遺命により阿弥陀ヶ峰に葬られ、墳上には廟、山麓には拝礼社殿が建立された。

翌年には後陽成天皇から正一位豊国大明神の神階と神号を賜り、盛大な祭礼（豊国祭）が取り行われたが、元和元年（1615 年）豊臣氏の滅亡と共に、廟は破壊され墳墓に吊いする人もなく、空しく風雨にさらされてきた。

明治三十年（1897 年）の秀吉の三百年忌に際し、墳上には巨大な五輪石塔が建てられた。しかし不思議なことに五輪石塔はじめ、回りの柵にも一字の文字も刻まれていないのはどういうことであろう。なお正面の石段は五百六十三段ある。

斎場の取付け道路を左へ降り、標識東山 14 で国道 1 号線脇に出る。緊急の場合は、ここにある停留所から京都市内中心部へ頻繁にバス便がある。

狭い歩道を標識東山 15-1 の渋谷街道の横断部へ向かう。標識東山 15-2 へは現在は横断歩道が無く、1 号線から左折して来る車に十分注意して渡ろう。

国道 1 号線を歩道トンネルで潜り抜け、標識東山 16-1 から公益社横の急な階段を登ると、正面に高倉天皇陵が望め、右上の高みは「歌の中山清閑寺」である。

歌の中山清閑寺は延暦二十一年（802 年）の創建で、古くから桜や紅葉の美しさから寺にちなんだ歌が数多く詠まれている。歌の中山と呼ばれる所以である。「要石」も有名で、この石の位置から市内を見ると扇を広げた様に景観が広がって素晴らしい。陶器の歴史も此処から始まり、聖武天皇の時代にこの寺内に窯が開かれたとあり、南北朝時代に清水焼がこの寺の窯から始まり、三条の栗田焼と合わせて京焼物が栄えていったという。「平家物語」の悲恋のヒロイン「小督の局」のゆかりの寺でもある。

標識東山 16-2 に導かれ歌の中山清閑寺の石標から、清水寺南門への道に入る。

トレイル案内看板の横に、地蔵さんが鎮座する標識東山 17 が清水山への登り口である。前年の台風の残骸が残る清水山国有林、樹林の中のつづら折れの結構な登りだ。途中、掘割状の処を越えると、道は左右に分岐する。右への分岐の先を覗いて見ると、古い石造三重の塔が見える。東山三十六峰「清閑寺山」である。

コースは左にとるが登りはもう少し続く。傾斜が緩くなれば標識東山 18-1 清水山三角点の分岐である。自然木を組んだ手製のベンチは絶好の休憩場所、思わず腰を下ろしたくなる。周辺は最近に森林管理事務所の手で雑木の伐採が進み、非常に明るい森林となっている。

東山三十六峰清水山（242.5m 三等三角点、点名清水山）は分岐から 30 ほど先だが展望は無い。三角点の南に防空監視所の鉄塔が半世紀以上の年月を経ても、こんもりとした椎の黄緑の樹冠をまとい、過去の負の遺産として赤茶けた残骸をさらしている。



清水山を下ると、標識東山 18-2 で森林管理事務所の作業道と交差する。右は東山ドライブウエーに降りてしまうが、同じ場所にある森林管理事務所案内柱に案内する「子安の塔」から清水寺を通り抜け、「地主神社」の参道手前の道を右手に登れば、トレイルコース標識東山 19 の広場で再び合流できる。

※現在、清水寺境内から標識東山 19 までのルートは、台風による倒木で閉鎖されている。



「清水寺」（きよみずでら）は山号を音羽山と称する。本尊は千手観音、北法相宗大本山で京都でも数少ない宗派寺院の 1 つである。木造の「清水の舞台」は特に有名で最近床板がしんちょうされた。古都京都の文化財の一部として世界文化遺産に登録されている。近年に坂上田村麻呂に帰順したが、田村麻呂の嘆願も甲斐無く無念にも処刑された、東北蝦夷の雄、阿弭流為（アテルイ）と盤具公母礼（バグノキミモレ）の鎮魂・顕彰の碑が建立された。

「地主神社」は清水の舞台の裏手にある神社で、主祭神は大国主命で、縁結びの神さまとして若い女性やカップルに大人気のベストスポットである



本来のトレイルコースは標識東山 18-2 作業道交差を直進する。やがて標識東山 19 の広場に着く、ここに立つ石造の古い道標は、後年に本来は対面に設置すべきところを、現位置に間違えて建て

直したらしい。

標識東山 19 の先を斜め左下に下るルートが、清水寺の地主神社への道である。標識東山 19 を五分ほど直進すると明治の元勳「伊藤博文」の「木戸考允を賛える」巨大な碑が建っている。隠れた遺跡だ。このあたり東山三十六峰「霊山」らしいが、先は行き止まりだから進まないこと。

※現在、標識東山 19 から先は台風の倒木で閉鎖されている。

将軍塚の頂上広場標識東山 21 の手前にも、明治の元勳井上世外「馨・聞多」の大きな石碑が建っている。先述の「伊藤博文」の碑と共に明治京都の実業家中井慈眼氏が建立、将軍塚のある大日堂も同氏の手で建設された。標識東山 19 から標識東山 20 手前の東屋の在る広場に下ると、付近は寺院や神社の檜肌葺屋根の材料を採取する、森林管理事務所の実験林となっている。標識東山 20 から梅雨時にはモリアオガエルの産卵も見られる用水池の横を登る。踏跡は縦横についており滑り易い道なので注意しよう。



青蓮院門跡大日堂

まもなく、いわゆる将軍塚、東山山頂公園の標識東山 21 に出る。東屋にトイレと無料の駐車場、京都を一望できる展望台がある。次いで標識東山 22 の前が「青蓮院門跡大日堂」である。桓武天皇が武将像を埋め、兵乱の前には天地鳴動するという将軍塚は大日堂の境内にある。思ったより大きな土盛の塚である。紅葉の頃も青葉の頃も美しい境内が楽しめ、素晴らしい展望に至福の時間を過ごすことができる。



将軍塚

大日堂の手前の標識東山 22 から、自転車進入防止柵の間を山道に左折、標識東山 23 で右の山道に導かれ青龍殿の展望台を回りこむように行く。標識東山 23 を直進すると円山公園に降り、次の標識東山 24 の分岐を左に下れば知恩院、トレイルコースはいずれも右折する。この辺り、台風の倒木処理後は雰囲気が変わり、明るい開削地に変貌した。



青蓮院からの眺望

標識東山 26 から左方向に新しく整備された遊歩道を降る。青龍殿新築に合わせて旧道は閉鎖されている。まもなくトレイルコースは「尊勝院」の境内に入る。天台宗でおみくじの元祖とも言われる元三大師を本尊とし、「見ざる、聞かざる、言わざる」の像があり京都三庚申の一つである。



尊勝院

今は青蓮院の管理であるが、比叡山千日回峰行者が修業報告に参られる寺で、ちなみに、その時千日回峰行者が白川を渡るときに利用されるのが知恩院参道脇の行者橋で、一人がやっと通れる石造の橋である。



明智光秀の首塚

余談になるが行者橋の近くに悲劇の武将明智光秀の首塚がある。京都でも人知れぬ小路の奥の小社だが、近所のお菓子屋さんが大事にお祀りされている。機会があれば訪ねてみよう。新しく駒札がたてられた。

尊勝院境内を通り抜けて栗田山荘の前に降り、小学校の塀沿いに標識東山 28 のある道が往古の「旧東海道」である。標識東山 28 を右折すると「栗田神社」の社前が出る。栗田口は京の七口（京都の七つの出入口）の一つで、栗田口にあるこの神社は、街道を行き来する旅人が旅の安全を祈り参拝したとされている。



行者橋

承安四年（1174 年）、源義経（牛若丸）も奥州下向の時、旅の安全と源氏再興を祈願したという。栗田神社には刀匠三条小鍛冶を祀る鍛冶神社もあり、この辺り栗田焼発祥の地でもある。

栗田神社社前の旧東海道を東に少し進むと、秀吉の愛用した「茄子形の手取り釜」にちなむ「良恩寺」がある。境内の「導引地蔵」は、昔、栗田口の刑場に向かう罪人に、この地で末期の水を飲ませ引導をわたしたという故事に由来する。



粟田神社

粟田神社社前の石畳の参道を抜け三条通りに出る標識東山 29 で、三条通を向かいに渡ると民家の間に、平安時代の刃匠三条小鍛冶宗近が神狐（しんこ）の合槌で、名刀「小狐丸」を打ち上げた故事から、神狐を祀る赤い鳥居の合槌稻荷大明神がある。この話は歌舞伎、謡曲「小鍛冶」に伝わる。三条小鍛冶宗近は祇園祭の長刀鉾の長刀を打ったという伝承でも有名。



良恩寺

三条通を右に歩道をたどると途中右手の山門が「仏光寺本廟」、親鸞聖人の御廟で境内には「三条小鍛冶宗近之古跡」碑がある。やがてウエスティン都ホテル前に出ると標識東山 30-1 である。

三条通の対面のインクラインの石垣を目標に、横断歩道の信号を二回渡るが、1 回目の信号を渡った所から下部に見えるレンガ造りの建物が、琵琶湖疏水の豊富な水を利用し、明治二十四年（1891 年）に日本で始めて建設された事業用蹴上水力発電所跡である。ここで発電された電気でインクラインを動かし、明治二十八年（1895 年）には日本最初の市内電車が営業を始めている。



粟田神社参道

仁王門道の信号を渡りインクラインの石垣に沿い右折すると「ねじりマンボ」標識東山 30-2 につく、地下鉄の蹴上駅はすぐ近い。時間があれば、仁王門道の信号を越え南禅寺方面に行き、南禅寺への橋を渡り疎水沿いの「疎水記念館」にぜひ寄ってみたい。入場無料で琵琶湖疏水、旧上水力発電所等の貴重な資料が展示してある。



蹴上交差点

「所要時間参考」



疎水記念館

京阪伏見稻荷駅 No1（15 分← →15 分）稲荷神社奥社 No2（20 分← →25 分）四辻 No3-1（30 分← →25 分）泉涌寺 No7（15 分← →10 分）剣神社 No9（10 分← →15 分）滑石街道 No7（35 分← →35 分）渋谷街道 No15（30 分← →35 分）清水山 No18-2（25 分← →25 分）東山山頂公園 No21（60 分← →40 分）蹴上ねじりマンボ No30-2

《京阪伏見稲荷駅 No1（4 時間← →3 時間 45 分）蹴上ねじりマンボ No30-2（10.3 km）》

※参考資料 Wikipedia, 深草稲荷（深草稲荷保勝会編）他

【文責 京都府山岳連盟トレイル委員会】

稲荷～蹴上間のトレイルコース記載の地図は「京都一周トレイル 東山」です
地図販売所に関するお問合せ、その他京都一周トレイルに関するお問合せは
京都市産業観光局 観光 MICE 推進室（TEL075-746-2255）

kanko.city.kyoto.lg.jp/trail/ 京都一周トレイル-京都観光 Navi を参照してください